

小栗上野介情報 号外

小栗まつり号

2013(平成25)年5月26日

発行 東善寺 住職 村上泰賢

群馬県高崎市倉渕町権田169

〒:370-3401 TEL&fax:027-378-2230

振替 00120-1-406206 東善寺

ホームページ <http://tozenzi.cside.com/>

Eメール: sharmila@theia.ocn.ne.jp

特別出演 倉渕中学校音楽部による

吹奏楽演奏

福田洋介作曲

「小栗のまなざし」

—小栗上野介公に捧ぐ— 初演



▲東善寺で墓参の後、倉渕中学校を訪れた福田洋介氏(右)と、指揮者の松元宏康氏(左)

作曲家福田洋介氏による新曲「小栗のまなざし—小栗上野介公に捧ぐ—」を、小栗まつりで倉渕中学校音楽部が初演演奏します。この曲は、吹奏楽などの作曲を手がける日本有数の作曲家福田氏がこの春に完成したもので、小栗まつりに間に合わせようと4月下旬の楽譜完成以来短期間に熱心に練習を重ねた生徒たちの、演奏をお楽しみ下さい。

大河ドラマのテーマ曲のような雄大なオープニングから、しだいに繊細な情景に入る曲想は、幕末維新期に国の構造改革をはかって激動の時代を切り抜けてゆく小栗上野介の視線と、生涯を思い浮かべるにふさわしいものとなっています。

小栗の生き様 吹奏楽で表現



作曲者の福田洋介さん。東善寺には小栗上野介の写真が飾られている。高崎市倉渕町権田

倉渕で26日に「まつり」、披露

幕末の勘定奉行小栗上野介(1827-68)が眠る旧倉渕村権田(現高崎市)で26日にある「小栗まつり」で、小栗をたたえる吹奏楽の新曲が披露される。演奏は地元倉渕中の生徒7人。作曲者の直接指導を受け、猛練習に励んでいる。

小栗は渡米使節での経験をもとに海外の文化を積極的に取り入れ、日本の近代化の基礎をつくったとして、故司馬遼太郎氏から「明治の父」と呼ばれた。官軍に対しては抗戦を主張したため旧倉渕村水沼で斬首され、領地の権田村(当時)東善寺に墓がある。

倉渕中は10年ほど前から「一人一楽器」を掲げて全校生徒が何かの楽器を3年間演奏できるようにする独自の音楽教育を展開している。現在は生徒数89人。権田出身の上場スーパー音楽者の寄付金を使って管楽器だけで70以上をそろえ、

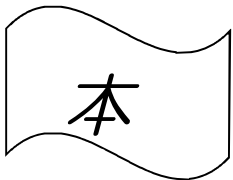


作曲者福田洋介さん(左)に指導を受け、練習を繰り返す生徒=7日午後、倉渕中学校

福田さんは全日本吹奏楽連盟と朝日新聞社が選ぶ「朝日作曲賞」を2度受賞し、吹奏楽コンクールの課題曲に採用されている。新曲「小栗のまなざし」は4月にできあがった。曲

地元中学生7人、猛練習

福田さんと松元さんは7日、倉渕中を訪ね、大型連休中も練習していた音楽部の2、3年生全7人を2時間近く直接指導した。「この小節は優しく」「ここはもう少し弾むように」「自信を持って」「などを助言し、演奏しやすいように、その場で曲の手直しをした。音楽担当の熊井和子教諭は「物語性のある曲で、場面を想像しやすい」、松本操校長は「本校の伝統の曲にしたい」と話していた。(長尾護)



近年、小栗上野介の業績見直しが進むと共に、関連する本の出版もさかんで、本当の歴史を知りたいという探訪者も多い。

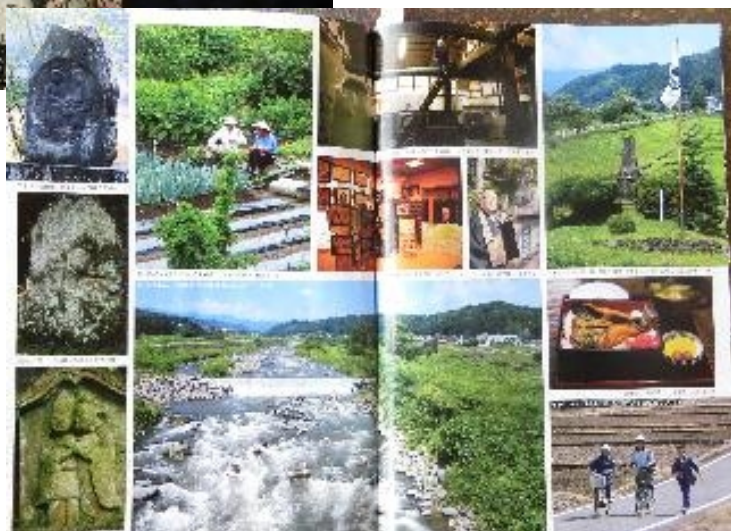
『歴史街道』 6月号 PHP出版



で倉渕の特集ページ

◇いま発売中の『歴史街道』6月号最終の6ページで「日本ふるさと紀行」第5回として「群馬・倉渕」を特集しています。

◇画像を中心として道祖神や小栗上野介の事跡をたのしく読みやすく紹介しています。 630円



予告

阿部道山著 『小栗上野介正伝』

まもなく復刊されます

◇阿部道山著『小栗上野介正伝』がマツノ書店から復刊されます。戦前昭和16年に発行されたもので、近年は古書で数万円、しかもめったに出回らず、入手困難な本です。予約による印刷部数決定で刊行となり、予約特価10000円、限定300部・番号入り限定復刊、とのこと。

◇一般書店では扱いません。

◇パンフレットご希望の方は東善寺へお申し込み下さい。本文解説とパンフレットの推薦文を住職・村上泰賢が書きました。



『小栗日記』

群馬県史料集

■小栗上野介・幕末研究
の基本史料 再版

本多夏彦編

¥2,500円+送料

◇昭和47年に群馬県史料集第7巻で発行された『小栗日記』だけが再版されました。

◇西軍に殺される4日前まで書いていた日記は、心打たれるものがあり、かつ貴重な史料といえます。

◇主な内容

日記（慶応3年1月～慶応4年閏4月2日までの小栗上野介の自筆日記） 家計簿「量入制出簿」（嘉永3年～安政2年5月）自筆の家計簿からも旗本小栗家の生活や、人の出入りがうかがえる／勝手方勘定帳（安政5年～安政6年12月）／勘定帳（安政7年～文久元年12月）／納（文久2年～文久3年12月）村々役人願出取次留（後藤八郎衛門の手記）／航海日記・抄（佐藤藤七）／航海日記・抄（柳川兼三郎）／小栗上野介の為替取建所取立建議（本多夏彦）



岩波書店 2,900円+税

□『小栗日記』を読む
『小栗上野介忠順と幕末維新』 高橋敏著

▽『小栗日記を読む一、』という副題のとおり、小栗忠順自筆の『小栗日記』を読んで、登場する人物や小栗の周囲に起こる事柄を推察、考察している。実は『小栗日記』は極めて簡潔な記述に終始していて、幕末の緊迫した時期に重要な人物が訪ねてきても「〇〇来たる、会い申し候」ほとんどこの一行で済ませているから、その会話や行動がまったくわかりにくい。そういった中で専門の歴史学の知見を生かしての考察は、たいへん参考になる記述が多い。

▽本文中では「勘兵衛を藤七の息子が襲名…」としているが、『小栗日記』巻末付載の「村々役人願出取次留」に「権田村名主勘兵衛」p.288 とあるように、日記中の勘兵衛は藤七の息子（勘十郎）ではなく、名主の佐藤藤七のことであろう。